



春の祭典「活竹祭」で多彩な催しを堪能



やる気、元気、活気！パワーアップ阿南をテーマに「第22回阿南市活竹祭」が3月1日、市民会館駐車場で開催されました。会場には、竹林をイメージしたステージが設置され、50近くの模擬店がずらりと並び、地元でとれた新鮮な野菜や海の幸などが手ごろな価格で販売されたほか、阿波踊り活竹人形や竹トンボづくりといった特産の竹を使ったものづくりコーナーも設けられました。なかでも電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」の試乗体験コーナーが人気で、約120人が試乗。最初は不安そうだった人も慣れると笑顔で操作していました。水井宏季さん（24歳・吹田市）は「不思議な感覚で、視界が広がるととても爽快でした」と話していました。

徳島駐屯地開設2周年 多彩な催し 1,000人が祝う



3月2日、陸上自衛隊徳島駐屯地で開設2周年を記念した行事が開催され、約1,000人が催しを楽しみました。グラウンドで行われた観閲式では、駐屯地司令の白山智章さんが「地域の皆さんが信頼できる駐屯地として一層訓練に邁進したい」とあいさつし、祝賀飛行や観閲行進が行われました。また、日頃の訓練の成果を披露する訓練展示では、戦車による模擬戦闘訓練などが行われ、訪れた人々は勇壮な隊員の姿に見入っていました。訓練を観覧した中田玲子さん（81歳・那賀川町）は、「迫力があり圧倒されました。こうした催しに参加することで、自衛隊の活動をより身近に感じることができます」と話していました。

「市政バス」を運行 市政に対する理解を深める



市内の特色ある施設をバスで巡る「市政バス」が2月25日に運行され、24人の市民が参加しました。一行は、科学センター、新ごみ処理施設「エコパーク阿南」、Jパワー橘湾火力発電所、王子ネピア(株)徳島工場を見学。このうちJパワー橘湾火力発電所では、タービンフロアや中央制御室などを見て回り、暮らしや経済を支える電気が生み出されるしくみについて学びました。熱心に見学していた仁木きぬ江さん（羽ノ浦町）は、「普段は見ることができない発電所内部を見学することができて感動しています。こうした機会を通じて、多くの方に阿南市のすばらしさを知ってほしいです」と話していました。市政バスの運行は平成18年3月の合併以降4回目です。

バラエティー豊かな上方落語を堪能



月亭一門による落語会「月亭一門会」が3月8日にコスモホールで開催され、470人が上方落語を楽しみました。出演したのは月亭八方、方正、八光、遊方の4人。このうち、八方師匠は「AKO47～新説赤穂義士伝～」というAKB48と忠臣蔵を織り交ぜた創作落語を披露し、45年のキャリアと一門の頂点に立つ師匠の巧妙な語り口で笑いを誘っていました。最前列で見ていた小松島市の30代の女性は、「あたかも人物やものがあるかのように演じる小道具の使い方や口上の滑らかさに感心しました。手ぬぐいの柄がみんな違っていただけが意外でした」と話していました。今回の公演は、阿南市制施行55周年を記念して開催されました。

男性向け「介護セミナー」を開催 保険制度のしくみや介助方法を学ぶ



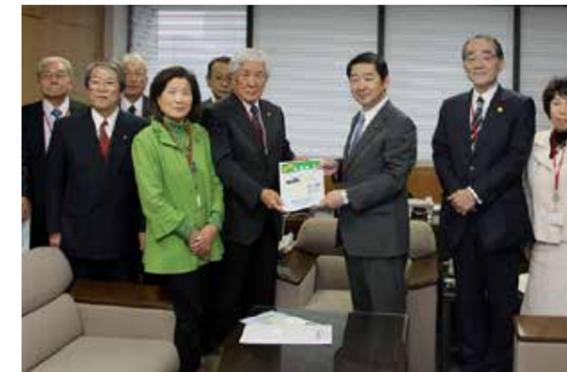
介護保険制度や介助方法について学ぶパートナーシップセミナー「介護を学ぼう」が2月19日にひまわり会館で行われ、11人が受講しました。講師で阿南北部第1高齢者お世話センター所長の井原恵美さんは、介護保険制度のしくみなどを説明したうえで、「困った時は男女問わず必要な制度なので関心を持っていただき、いざというときは高齢者お世話センターに相談してください」と呼びかけました。要介護者を介助する実技講習では、無理なく介助するコツなどを学びました。熱心に耳を傾けていた宮本秀昭さん（68歳・津乃峰町）は、「介護のことを知るいい機会になりました。知人や友人にもこの大切さを伝えていきたいです」と話していました。

日本文理高校が阿南市で合宿 地元住民も熱く応援



第86回選抜高等学校野球大会に新潟県代表として出場する日本文理高等学校の合宿が、3月13日から4日間、阿南市で行われました。選手たちは、J Aアグリあなんスタジアムで新野高等学校との練習試合などをこなし、本番に向けて最終調整を行いました。桑野地域の皆さんも野球用具の運搬や昼食の接待で合宿をサポート。必勝と書かれた手作りの応援旗などを贈り、甲子園での活躍を祈りました。地元の熱い思いを受け取った主将の池田貴将さん（2年生）は、「皆様のご協力のおかげで、とても濃い内容の練習ができました。これを大会でも生かせるように頑張りたい」と感謝を述べました。甲子園出場校が本市で合宿したのは、今回で3例目です。

新医療施設の整備に向けた 中央省庁要望活動を実施



阿南医師会中央病院と阿南共栄病院の統合については、現在、救急医療体制の強化、地域完結型医療体制の実現などを基本とした「新病院の基本構想」の策定が進められています。このようななか、両病院の統合を支援する官民一体の組織「阿南市地域医療確立対策協議会（会長 阿南商工会議所平尾勲雄会頭）」が、2月27日に厚生労働省と財務省を訪れ、新医療施設の整備に向けた「医療提供体制の改革のための新たな財政支援制度」についての要望活動を行いました。厚生労働省によりますと、「新たな財政支援制度の創設のために法案の早期成立に努めたい」とのことでした。

春の珍味、ヒウオ料理に舌鼓



3月9日、椿町で「第6回椿川ヒウオ祭り」が開催され、県内外から約300人が訪れました。祭りでは、椿川でとれた体長5cmほどのヒウオ（シロウオ）を使った料理や新鮮な野菜が販売されたほか、ヒウオ漁体験も行われ、にぎわいました。友人と雑炊を試食した中村茂義さん（66歳・丸亀市）は、「優しい風味が口の中いっぱい広がるととてもおいしい。遠くから来たかきがありました」と、春の珍味に舌鼓を打っていました。主催した椿ヒウオ協同組合長の武田豊司さんは「担い手が高齢化し厳しい状況ですが、こうして多くの人に来ていただいて励みになります。これからも地域の伝統を守ってまいります」と話していました。ヒウオ漁は4月中旬まで行われます。